

丸山湿原群保全の会会報

(第 176 号)

発行日：2022 年 (R4) 3 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

よく言われますが、21 世紀にこんな戦争が起こるとは。世界戦争にもなりかねない。平和の祭典と言われるオリンピックが終わるのを待ち構えていたように始まりました。ロシアのクリミア半島への侵攻が 2014 年、それ以降の紛争状態が続いていた。その延長線上の今回の侵攻。オリンピック期間は避けるがパラリンピックは避けない？結局、スポーツ選手を含め社会的弱者が見捨てられる現状。

SDGs が戦争中にも声高に叫ばれていますが、なんと空しい響きでしょうか。しかも脱炭素社会と言いながら化石エネルギーに振り回される。拳銃の果てにエネルギーの安定供給に原子力発電所の必要性まで。かたや原発関連施設への攻撃は「世界の恐怖」と。それがなぜ必要なのか？廃棄物すらどうにもできない。この戦争のタイミングが「フクシマ」と同時期というのも皮肉な話だと思います。(あくまでも私見です…)

美しい自然の回復と人々の平和が一日も早く訪れることを願います。戦争反対！

(今住 3 月 15 日作成)

両生類セミナー・卵塊数調査 ★2 月 27 日 (日) セミナー参加 27 名 調査参加 27 名

昨年度はコロナ禍の影響で ZOOM 講演 (ハイブリッド) を行いました。今回もひょっとしてできないのではと心配しましたが、会場の人数を 30 人まで (当初は 40 人) に絞って実施することができました。(定員に達しなかった…) もちろんコロナ対策を徹底して。「西谷の森公園」のご協力もあり、スムーズな運営ができたと思っています。参加人数は 27 名。少し少ない？いろんな意味でこれぐらいの人数がホッとします。なんか変ですね。

今回も広島からオオサンショウウオ保全研究の第一人者、田口さんをお招きし、「オオサンショウウオの保全活動から考える湿原保全」と題して講演



田口博士と Jr.博士

していただきました。オオサンショウウオ保全のために動物園と地域 (三ちゃん S 村 = 地域の保全団体) が取り組んだ内容や、オオサンショウウオの不思議をいっぱいお話ししていただきました。丸山の過去のデータのまとめも発表していただきました。

そこで思い当たったのが、羽束川 (丹波篠山市 ~ 三田市 ~ 宝塚市) のオオサンショウウオ保全はどうなっているのか？たまたま羽束川周辺 (高平) にゆかりのある方が来られていたので聞いてみると、「不勉強で申し訳ない」と。すみません、こちらの無茶ぶりで困らせてしまいました。西谷にも丸山湿原ってどこ？という人はたくさんいます。そうい



お借りした消毒液と検温計

うもんだと思います。「三田市さ～ん何かご存知？」と誰に言ってんねんやろ…

広島のおオサンショウウオ保全と「丸山湿原群保全の会」との共通点は？里地里山地域でのバックアップ体制＝「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」か。いちばん大事なことはやはり「熱意」、これに尽きるようです。皆さん頑張りましょう！いや楽しみましょう！



田口 Jr 博士 研究本

今回も田口さんは「ウルトラマン博士」同伴。(助手?) セミナー講演の間は今の研究テーマ「未確認生物＝UMA」に没入されていました。素晴らしい。世界平和に貢献してください。

午後は丸山湿原に場所を移して両生類卵塊数調査。田口博士親子も同行。

ラインセンサス方式により卵の種類、場所、水深を確認していきます。今年は寒い日が続いていて産卵の時期が遅れているようです。しかも産卵を促すとされる雨も本当に少ない。さてどれぐらいの数が確認できるのでしょうか。

天気がよく、大変気持ちの良い観察日和です。午後も多少のメンバー入れ替えはありましたが27名の参加。3つの班に分かれてスタートです。また数字のトラウマにとりつかれ班分けにあたふた。申し訳ありませんでした。コース分けでは田口さんが耳元でこそっと「お子さんのいる班は卵の多い所へ」と。迷わず実行。これが功を奏し、子どもたちがセトウチサンショウウオ



第1湿原は二手に分かれスタート

(瀬戸内山椒魚)の卵嚢を多数発見していたようです。「目」がいい?のど「体が軽い」?結果は?やはり「すごい数」とはいかず、セトウチサンショウウオ7対、ニホンアカガエル(日本赤蛙)8塊という結果でした。ここ数年この時期のアカガエル類は既にオタマジャクシになっていたのですが、今回は数が少ない上にまだ塊のまま。これからまだ産むのでしょうか?



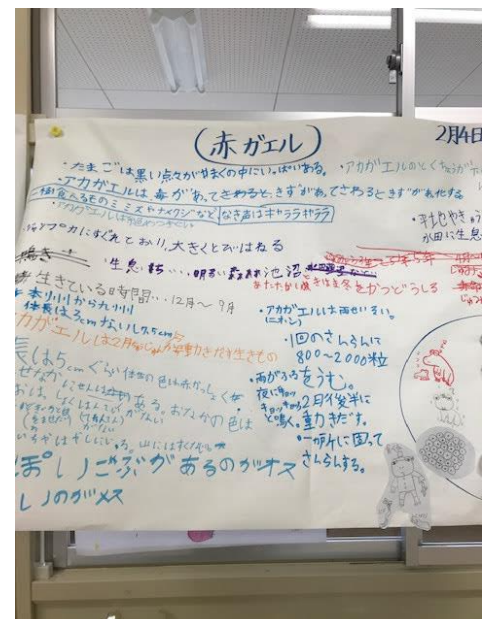
セトウチサンショウウオの卵嚢

しかし田口さんのまとめでは、ほぼ例年通りではないかという見解でした。探す側としてはもっとウジャウジャあってほしい気がします…。後日、田口さんから連絡があり「職場のシフゾウ(担当動物)の水場でヤマアカガエルの卵が7塊産まれてました」とのこと。シフゾウとヤマアカガエルって…。どうということ?ま～そんな現場やな。

西谷小学校環境学習★3月4日(金)

昨年度は座学(教室)1回、フィールド1回の2回だけだった環境学習。今年度はコロナとの付き合い方もわかってきたのか、何とかフィールドも3回目(最終回)を迎えることができました。しかし、当初の計画では2月4日。それが蔓延防止等重点措置で20日以降になってしまいました。措置の延長はあったものの3月4日に決行!校区内の校外活動ならOKとのことでした。(間違っていたらごめんなさい)

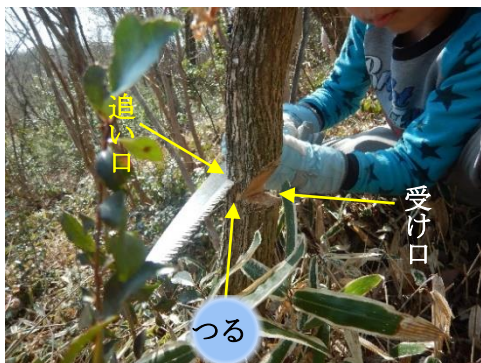
本当に意欲的な学年で「せっかく行くのなら調べ学習をしてから」とアカガエル類の事前学習をしていました。2月4日に合



学校の廊下に発表? 事前学習

わせて1月中に。エライ！調べた内容は模造紙にまとめ、「ポスター発表」（廊下か？）。人と自然の博物館（三田市）主催の「共生のひろば」で発表してほしいほど。調べてすぐ来られればよかったのですが、結局ひと月後に。いいこともあるもので、2月4日ではアカガエル類の卵塊は無かった。今回は産みだてではないが相当数の卵が産まれていました。

最終回のメインは保全活動体験。湿原内の刈り取った又マガヤを片付けずにわざわざ残しておきました。そう又マガヤ運び出し作業。（楽しそうと思っただけか？毎年毎年…へっへっへっ…）



もう君は杣人だ！



「つる」を残し安全に伐倒



自作シーソーか？

ました。湿原の乾いたところでシーソー遊び。凄いわー！最も大変な草の運び出しも順調にすすみ、ほぼ予定量終了。

しばし休憩。なんと運び出した又マガヤがふかふかベッドに。天気も良くとても気持ちのいいひと時でした。夏に作った「ストローの草ですよ〜」って言うの忘れた！

さてご褒美。卵探しです。調査時のセンサスラインはまだそのまま。ラインより中に入らない約束で探しました。

捜索に向かう前に「おった！」と大人の声。周りの木の下



やはり水が大好きジャブジャブ

それとノコギリ体験。今回は伐倒。本格的です。さて出来るでしょうか？出来るわな…。

活動を3つに分けました。草運び2班、ノコギリ1班でローテーション。普段の活動とは違う編成のようです。先生に相談すると「いかようにもなります」と。学校の班決めと言うと何やら必ず問題はつきもの。ところが「ハイ、3つの班に分かれて！」の掛け声に、あっというまのタメ〜ゴロウ。（古い…）すぐ分かれました。素晴らしい！しかもどうやらこの日を「と〜〜っても」楽しみにしてくれていたようです。「お世辞？」と思っていたら、たまたまお会いしたおうちの方から「朝から丸山湿原行くねん！！」と興奮していたというお話を伺いました。嬉しいではありませんか。期待に応えねば！おじさんおばさん頑張ります。

ノコギリはだいたい3人ひと組で実施。まず常緑のソヨゴやヒサカキを伐ります。ごく細いものを選んでノコギリに慣れることが目的。本来はこれらの太い木を伐採し陽当りをよくする作業。その後「どうせなら太いの伐りたい」という本来の欲求に応えました。落葉樹ですがたくさんあるリョウブなど。

ちゃんと「受け口」「追い口」「つる」を作りました。「どっちに倒したい？」から始まり「こっちに切り込み（受け口）」と言うと、「チェーンソーと一緒にや！」との声も。家でチェーンソーでの伐採を見ている子もいるようです。もともとはノコギリが始まりやからね。斧か？と心の声。伐るのは楽しそうでした。倒すときはきっちり「つる」を残しゆっくりと。とにかく安全第一でやりましょう。伐った木はなぜか長いまま運び出し（入れ？）



ベッドはふかふか 糞虫にも見えるな〜



を探っていた会員が**成体のセトウチサンショウウオを発見**。写真以外で見られるとは誰も思っていませんでした。(大人だけ?) 運のいい子どもたちです。すると近くからもう1匹。児童が見つめました。やるね~。お腹が大きく膨らんでいるようです。産卵前?当然ですが卵もあります。アカガエル類について調べたことはどこかに飛んでいったのか話は聞けませんでした。きっと観察しながら「フムフム」と納得していたのでしょう。**セトウチサンショウウオの卵嚢も発生が進み、生き物の形になって**



発生が進んだ卵

発見!セトウチサンショウウオ **いました。人の胎児の3日目ぐらい?**とそっくりです。生き物の発生初期段階はみんな同じ形のようですね。湿原から人の赤ちゃんが生まれても恐ろしい。が、DNAとは不思議なものです。とひとりしみじみ思ってしまいました。観察後帰途へ。なぜかバスにはリョウブの太い木と、ジップロック入り大量の「シカの糞」が積み込まれていました。給食はパンの日だそうで「シカの糞サンド」を食べるとか。「食べへん、食べへん」と一人突っ込み。謎は残るシカの糞。また来てね~!

定期活動★3月12日(土) 基礎調査 湿原内刈り取り作業 9名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	62	38	入口	9:50	16.5℃		
ハイキング	19	30	第3湿原	10:30	【13.3℃】	33.7 μS/cm	7.2
散歩・登山	46	40	視点場	11:02	20.9℃	34.2 μS/cm	7.2
来場者数 235 計人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	10:57	【10.9℃】	31.8 μS/cm	7.2
			第2湿原	10:40	【7.5℃】	36.5 μS/cm	7.3



杭を背負って出発



杭うち作業

一気に気温が上がりました。しかし雨は降らず。カラカラの状態が長く続いています。気候の極端化でしょうか。両生類たちも産卵のタイミングがわからないのでは?とってしまいます。また産んだ卵が干からびることも...考えると悩ましいのでやめましょう。

今日は基礎調査の日ですが、先日の両生類卵塊数調査の基準杭が欠落もしくは破損しているの、新しい物と交換。同時にライン回収を行いました。もちろんデータ取りも。両生類の卵は気温の上昇とともに発生が進みオタマジャクシに。越冬蝶も多く飛び始めました。テングチョウ(天狗蝶)・キタキチョウ(北黄蝶)・ルリタテハ(瑠璃立羽)も見られました。気が付けば桜の便りも近い。季節は巡ります。すべての生き物がバランス良く見られることを願っています。



産まれたてオタマジャクシ



冬を乗り越えたテングチョウ

次回活動日 3月27日(日) 4月9日(土) 24日(日) 5月14日(土) 22日(日)